令和４年度　西東京市立芝久保小学校　学校自己評価表

＜学校教育目標＞	自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。自ら学び、自ら考え、元気で心豊かな思いやりのある児童の育成を目指す。 ◎粘り強く考える子　　自己の目標をもち、よく考え、他者の考えを取り入れて課題を解決し、学び続ける児童を育てる ○仲良くする子　　生命の尊さや自他のよさに気付き、規範意識をもち、相互に思いやり、励まし合える児童を育てる ○元気に活動する子　　健康に留意し、規則正しい生活習慣を身に付け、運動に親しみ、進んで心身を鍛える児童を育てる	学校関係者評価 A･･･評価は適切である B･･･評価に一部改善が必要である C･･･全体的に改善が必要である
＜目指す学校像・児童像・教師像＞	『自らを律し、ともに学び合う児童の育成】～生きる力を育む～ ○目指す学校像　　あったか先生のいる学校：４つの「あ」を大切に、心も体健やかに育ち、学習効果が上がる学校「愛情」「安全・安心」「あいさつ・温かい言葉」「ありがとう」 ○目指す児童像　　自ら学び、確かな学力を身につける児童　　自他の生命を尊重し、豊かな人権感覚をもつ児童　　健康と安全に心掛け、体力の向上に努める児童 ○目指す教師像　　教科指導や児童指導に専門的な力をもつ教師　　児童理解を深め、児童の心を開く、信頼される教師　　使命感と責任感をもち、研鑽に努める教師	

領域	中期経営目標	番号	短期経営目標	具体的方策	努力目標		成果目標		教職員 学年	教職員 評価	アンケート	評価（%）	分　析	改　善　策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 ご　意　見
確かな学力の向上	教職員の指導力の向上	1学	児童が主体的、対話的で深く学べるようなタブレットを活用した指導の実施	学習過程を意識し、タブレットを使った効果的な指導法を実践、共有する。	4 (3) 2 1	週に５回以上実施 週に３～４回実施 週に１～２回実施 週に１回未満実施	(4) 3 2 1	児童の深まっているという評価80%以上 児童の深まっているという評価70%以上 児童の深まっているという評価60%以上 児童の深まっているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	2.3 3.3 3.5 2.5 3.0 4.0 3.3 2.9	児童 タブレットを使った学習を通して、新たに考えをもったり自分の考えを見つめ直したりしている。	83	・児童同士の考えをすぐにで共有できるアプリケーションを活用し、友達の意見をもとに新たな考えをもたせることができた。 ・タブレットの使用に慣れていく段階から、強みを理解し、授業で活用することができる段階へ進んでいると考えられる。	・児童同士で考えを共有できるタブレットの活用方法は、教員間で共有し、継続して授業に取り入れていく。 ・授業の振り返りの際に、タブレットを使ってよかった場面を想起させる。どのような場面でタブレットを活用すると学習が深まるかを意識させていく。	B	・芝久保小は、先進的に取り組んでいると感じる。タブレットの使用を頑張って指導している努力が認められる。 ・引き続き、個別最適化した学習の保障が求められる。 ・問いと答えだけにならないように、プロセスを大事に、児童の学習意識を高めてもらいたい。 ・タブレットを使用している際に、関係ない画面を見たり遊んだりしている児童への対応を考える必要がある。 ・ＳＮＳの怖さについても指導をしてほしい。
		2学	自分の考えがもてる指導の工夫	考える内容の明確化、自分の意見をもつ時間の確保、意見交流の時間の設定などの工夫をする。	4 (3) 2 1	90%以上の教科及び単元で実施 80%以上の教科及び単元で実施 70%以上の教科及び単元で実施 70%未満の教科及び単元で実施	(4) 3 2 1	児童のできているという評価80%以上 児童のできているという評価70%以上 児童のできているという評価60%以上 児童のできているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	3.0 3.3 4.0 3.5 2.6 4.0 3.3 3.3	児童 授業に、自分の考えをもって取り組んでいる。	86	・授業におけるめあてを明確にすることで、児童に自分の考えをもたせることができた。 ・芝久保スタンダードが教員で共通化できている。	・自身の考えをもつことが難しい児童に対して、個別的な指導の方法を検討していく。また、友達の意見を参考にする前に、しっかりと自分の考えをもてる時間を確保する。 ・芝久保スタンダードは、授業の流れの基本なので、全教科で取り入れ、自分の考えがもてるようにしていく。	A	・「まず自分の考えをもつ」という指導はとても良い。 ・自分の考えとは違う考え方に気付き、各々の学びにつながっていく。 ・限られた時間の中で、自分の考えをもつことが難しい児童に対して、個別対応の取組がされて良い。 ・芝久保スタンダードという共通の指導法があるのはとても良い。更なる強化、定着が望ましい。引き続き、徹底を図ることが課題である。
豊かな心の育成	特別活動・人権教育の充実	3健	異学年交流を通して、心豊かな思いやりのある児童の育成	ペア学年活動などの異学年交流を充実させ、互いに認め合い協力できる指導を実践していく。	4 (3) 2 1	月１回以上実施 ２か月に１回実施 学期に１回実施 学期に１回未満実施	(4) 3 2 1	児童のできているという評価80%以上 児童のできているという評価70%以上 児童のできているという評価60%以上 児童のできているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	3.6 3.6 4.0 4.0 3.3 4.0 2.0 3.1	児童 ペア学年活動などで、違う学年の友達とも仲良くしている。	92	・２学年の交流活動を通じて、上学年の自覚や下学年が将来への見通しをもつことができた。 ・少人数での活動により、児童同士の関わりが強く、達成感や満足感が向上した。 ・努力目標の項目が「３」であったため、校内で月１回の活動という認識をより高めていく必要がある。	・次年度もペア学年活動を継続する。ペア学年遠足は、電車で行く計画を立てる。 ・活動内容や児童の関わり方について、相手意識や思いやりの心を育てていけるように指導する。 ・ペア学年の実施日とその回の大まかな内容を健やか支援部計画し、児童、職員ともに月１回の活動として意識していけるようにする。	A	・異学年のメッセージや手書きのポスターが多く、優しい環境の中で生活できている。 ・通学時も、異学年で仲良くしている様子が見られる。 ・異学年交流を通して自己肯定感を高め、思いやりのある優しい児童を育てている。 ・電車に乗って行くペア学年遠足の計画は、素晴らしい。 ・６年が１年の面倒を見る時に、大人のフォローが必要。
		4学	児童一人一人を大切にした指導の実施	人権教育の推進を通して、よさを認め、あたたかな心を育む指導を実践する。	(4) 3 2 1	90%以上の授業で実施 80%以上の授業で実施 70%以上の授業で実施 70%未満の授業で実施	(4) 3 2 1	保護者の取り組んでいるという評価80%以上 保護者の取り組んでいるという評価70%以上 保護者の取り組んでいるという評価60%以上 保護者の取り組んでいるという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	4.0 3.3 4.0 4.0 4.0 3.5 4.0 3.8	保護者 学校は、児童のよさを認め、あたたかな心を育む取組をしている。	95	・人権教育の取組に関わる教員研修（あったか研修）を、毎月計画的に実施した。 ・「西東京あったか先生」の掲示物を各教室に掲示して徹底したことで、学校で一貫した指導を行うことができている。	・今年度実施した「あったかアンケート」の分析結果を「あったか研修」で共有し、「西東京市あったか先生」の内容を再確認し、一人一人の児童に寄り添った指導を行っていく。 ・多様性を大切にした指導を行う。男女混合名簿、男女混合での並び方や座席配置を継続し、今後も男女別は必要なことのみにするよう、配慮する。	A	・あったか先生のポスターが校内に掲示されていて、学校での取組が伝わってきた。 ・子どもたちの相談室への相談が増えていると聞いた。自分を大切にするという考えが身に付いてきている。 ・ジェンダーの配慮、推進、充実が図られている。 ・一人一人の人権を尊重した取組は、全ての項目で一貫されるように努めてほしい。
健康で安全な学校生活	児童の健康と安全の増進	5健	健康に関する教育の啓発・指導の計画的な実施	「手洗い」や「三密対策」など感染症予防の取組や指導を養護教諭と連携して行う。	(4) 3 2 1	毎日実施 週に４回実施 週に３回実施 週に３回未満実施	(4) 3 2 1	児童のできているという評価80%以上 児童のできているという評価70%以上 児童のできているという評価60%以上 児童のできているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	4.0 4.0 4.0 4.0 3.6 3.0 4.0 3.7	児童 手洗いやマスク、検温などをして感染症を予防している。	97	・毎日の検温や手洗いを継続的に行い、感染症予防を習慣化できている。 ・日々の声掛けや、作成した手洗い動画により、児童の感染症予防への意識が向上した。 ・マスクの着用は、状況に応じた着脱を指導することで、熱中症と感染症の双方の予防につながった。	・日々の声掛けやお知らせ、掲示物など、感染症予防の重要性や健康に対する理解を高める指導を継続していく。 ・マスクの着脱のタイミングや食事の仕方など、引き続きわかりやすく指導に努め、児童が安心して生活できるような感染症対策に取り組んでいく。今後は、第5類移行に伴う指導を検討する。	A	・手洗いの習慣化、感染症対策の浸透が感じられる。 ・家でも手洗いが習慣化している。学校の取組の成果だと思う。 ・学びの保障と心のケアが引き続き課題になっていく。 ・子どもがマスクを外すことをためらったり、差別やいじめになったりしないように注意して指導してほしい。
		6健	いじめの未然防止・早期発見・早期対応	いじめ防止に関する授業や教職員の研修を行う。また、いじめ調査や情報交換を定期的に実施し、実態把握や対応に組織的に取り組む。	(4) 3 2 1	児童への授業と教職員の研修を合計年５回以上実施 児童への授業と教職員の研修を合計年４回実施 児童への授業と教職員の研修を合計年３回実施 児童への授業と教職員の研修を合計年３回未満実施	(4) 3 2 1	保護者の取り組んでいるという評価80%以上 保護者の取り組んでいるという評価70%以上 保護者の取り組んでいるという評価60%以上 保護者の取り組んでいるという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	4.0 3.6 4.0 4.0 3.6 4.0 3.6 3.5	保護者 学校は、いじめ対応やいじめ防止についての取組をしている。	94	・毎学期のいじめ調査と聞き取り対応、いじめ防止に関する授業、年3回以上の校内研修での取組を継続的に続けてきたことやそれらの取組をHPやおたよりで発信することができた。 ・児童の様子について、教員同士や教員と保護者が情報交換をする機会が取れている。	・年３回のいじめ調査、全員面談、いじめ防止授業、校内研修等を次年度も継続して実施する。 ・学校、家庭、関係機関が連携して、児童にとって安全、安心な学校になるよう、努力を続ける。 ・第2回いじめ研修において、各学級のいじめ防止の取組を共有し、実践力及び指導力の向上を図る。 ・教職員が挨拶、褒める、声を掛ける等、すすんで未然防止に努める。	B	・いじめ調査や防止研修が効果的に実施され、いじめ防止に努力している様子がうかがえる。 ・学校の先生に話しやすい空気感がある。 ・今後も高いアンテナとアンテナの数を増やしてほしい。 ・児童が相談できる体制を引き続き整え、スクールカウンセラーの相談ポストの周知を定期的にしてほしい。 ・表面化していない問題が存在するかもしれないので、今後も意識的に取り組んでほしい。
保護者や地域との連携	保護者・地域と連携した教育活動の推進	7経	家庭や地域への積極的な情報提供	学校ホームページを適切に更新する。	(4) 3 2 1	学年や専科で１か月に１回以上更新 学年や専科で２か月に１回更新 学年や専科で学期に１回更新 学年や専科で年に１～２回更新	(4) 3 2 1	保護者の行っているという評価80%以上 保護者の行っているという評価70%以上 保護者の行っているという評価60%以上 保護者の行っているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	4.0 3.6 4.0 4.0 4.0 4.0 3.5 3.7	保護者 学校は、ホームページを適切に更新している。	96	・経営支援部で学校全体のHPアップ内容を確認し、各学年・専科のページについてはHP担当が計画的に更新できるよう掲載内容の集約や声掛けを行ったことが、頻回の更新につながった。 ・担当職員にページ作成の補助を依頼することで、無理なく更新を継続することができた。 ・学校だよりにQRコードを掲載したことが広報になった。	・次年度は、さらに更新回数を増やせるよう、努力目標の４を「学年や専科で1か月に２回以上更新」、３を「１回以上更新」として取り組んでいく。 ・ホームページをアップできる人材を増やすため、夏季休業中に研修を行う。 ・令和５年度よりコミュニティ・スクール実施校となる。より一層、地域・保護者と連携した教育活動を進めていく。	A	・学校情報が定期的にホームページにアップされて、見やすく分かりやすくて、楽しみにしている。無理なく情報公開されることを望む。 ・学校だよりの巻頭言で色々な先生の仕事が分かり、より身近に感じた。 ・来年度、コミュニティスクール実施で、芝久保小が発信力の強い、地域に根付いた小学校になってくれたらありがたい。
		8健	誠実かつ迅速に対応する組織運営	校内での報告、連絡、相談を迅速に行い、保護者の質問や相談に誠実かつ組織的に対応する。	(4) 3 2 1	事案発生直後 事案発生当日 事案発生翌日 事案発生２日以上後	(4) 3 2 1	保護者の対応しているという評価80%以上 保護者の対応しているという評価70%以上 保護者の対応しているという評価60%以上 保護者の対応しているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	4.0 4.0 4.0 4.0 3.3 4.0 3.6 3.8	保護者 学校は、保護者からの相談に誠実に対応している。	94	・生活指導上のことは、管理職と生活指導主任等へ速やかに報告連絡相談し、校内委員会で検討し、組織として対応するようにしている。 ・保護者への連絡は、迅速かつ誠実に対応することを心掛けて実行している。 ・水曜日の生活指導連絡会において、全体への周知徹底をしている。	・引き続き、教職員間での連携を密にし、組織として対応していくことを大切にしていく。 ・保護者対応について、今後も迅速かつ丁寧に、誠実な対応を全教職員で行っていけるよう努めていく。 ・生活指導連絡会等において、全教職員で共通理解を深め、丁寧な指導に当たる。 ・学年間で、保護者対応について良かった点と改善点の意見交流をし、対応の仕方について学び合う。	A	・教職員全体のいつも丁寧な挨拶や対応が素晴らしい。 ・情報の共有は必須であり、慎重かつ素早く、組織的な対応が求められる。 ・保護者対応についての意見交換は、とても重要。引き続き教職員間の連携を密に、誠実な対応をお願いする。
業務の改善・働き方改革	働き方改革の推進	9経	働きやすい環境づくり	担当している教室等の５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）を実施する。	(4) 3 2 1	週に１回以上実施 月に２回実施 月に１回実施 月に１回未満実施	(4) 3 2 1	教職員の実施しているという評価80%以上 教職員の実施しているという評価70%以上 教職員の実施しているという評価60%以上 教職員の実施しているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	4.0 4.0 4.0 3.0 4.0 3.5 4.0 3.8	教職員 担当している教室等の５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）を実施している。	100	・日常的な整理整頓や消毒作業とともに、長期休業期間のワックスがけやフィルター清掃も分担して行った。 ・職員室の机上フラット化の取組の一環として、週1回、管理職より職員室の机上整理の声掛けを行ったことで、教職員の整理・整頓への意識が継続、習慣化した。	・教職員の５Ｓの意識が習慣化していると考えられるため、働きやすい環境づくりへの意識を個々から全体に広げていく。自分の担当箇所だけでなく、教員、事務、用務問わず皆が気持ちよく働ける環境になるようにする。 ・これまで整理整頓の一環として断捨離する場面も多くあったが、紙や文具の無駄遣いを減らすという視点も大切にしていく。	A	・５Ｓの徹底について教職員の意識が高いのが素晴らしい。芝久保小の文化として永続していただきたい。 ・定期的に声を掛け合っての意識付け、習慣化は素晴らしい。
		10経	教職員の「働き方改革」への意識の向上	「学校における働き方改革推進プラン」（市教委）をふまえ、平日の在校時間を１０時間以内とする取組の一つとして、定時退勤日を各自設定、実施する。	(4) 3 2 1	月に４回以上 月に２～３回 月に１回 月に１回未満	(4) 3 2 1	定時退勤を月2回以上しているという評価80%以上 定時退勤を月2回以上しているという評価70%以上 定時退勤を月2回以上しているという評価60%以上 定時退勤を月2回以上しているという評価60%未満	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 専 全	3.3 3.3 3.5 4.0 3.3 3.0 3.6 3.5	教職員 定時退勤をしている。	100	・昨年度は「在校時間１０時間以内」を目標に掲げたが、達成できた教職員は６０％未満であった。それを踏まえて、今年度は努力目標を少し頑張れば達成可能なものに変更した。 ・方策を「各自定時退勤日を設定する」と具体的にしたこと、定時退勤したら一覧表に丸を付けて全員が見られるようにしたことで、在校時間短縮への意識が高まった。	・最終目標である「平日の1日当たりの在校時間を１０時間以内とする」に近づけるため、来年度は、努力目標の定時退勤の回数を増やす。 ・教員の意識改革も必要だが、仕事量を減らすことも不可欠である。今年度は、朝の欠席連絡をメールで可能にする、校内で開錠施錠する箇所の見直しをするなどを行った。今後も仕事の効率化・スリム化のアイデアを検討し、働き方改革に取り組んでいく。	A	・全体の仕事量が減らせるよう、教員の業務そのものが見直されるとよい。誰かに仕事が集中しないように分散されるとよい。 ・「早く帰るのが当たり前」という目標をこれからも継続していけば、さらに効率的になっていくと感じる。 ・メールでの欠席連絡の導入は、保護者の負担も減るし、学校側の負担も減るという両面があるのがよい。